

宇野 茂樹 元大阪商業大学教授

藤村潤一郎 創価大学文学部特任教授

深井 甚三 富山大学教育学部教授

坂本勝比古 神戸芸術工科大学名誉教授

高橋 哲雄 大阪商業大学名誉教授

高 賛 侑 ノンフィクション作家

田中 一美 神戸大学大学院文化学研究所  
博士課程単位取得退学

石田 信博 同志社大学商学部教授

石上 敏 大阪商業大学経済学部教授

小田 忠 大阪商業大学商業史博物館学芸員

池田 治司 大阪商業大学商業史博物館学芸員

丸尾 佳二 大阪商業大学商業史博物館特別職員

運営委員（五十音順）

石上 敏 大阪商業大学経済学部教授

加賀田哲也 大阪商業大学総合経営学部助教授

瀧澤 秀樹 大阪商業大学経済学部教授

西村多嘉子 大阪商業大学総合経営学部教授

林 妙音 大阪商業大学総合経営学部助教授

▼高橋先生の博物館都市巡りを読んで、「クローディアの秘密」に興味を持った。「家出」をテーマにした児童文学とはいかがなものか。読むと、キンケイド家の姉弟の家出に悲壮感は全くない。「ミケランジェロの作かもしれぬ天使の彫刻像」をメトロポリタン美術館に売り渡した旧蔵主フランクワイラー婦人は、証拠になるミケランジェロのスケッチを持っているにも関わらず、「かもしれぬ」ペールを着せたまま美術館に売却したのである。ミケランジェロの作が証明されれば、もっと高い値段で売れたのに、フランクワイラー婦人は「秘密」の方を取ったのである。そして、その秘密と引替えに、家出の真相に関する「クローディアの秘密」の一部始終を聞き出そうとする。そんな心理を理解する一歳少女もたいしたものである。

▼今回も興味をそそる論考が集まった。その中でも、個人的には、坂本勝比古先生の、戦前に建てられた小阪町営住宅「東翠園」に関する論考が印象深い。というのは、以前「続々おおさか漫歩」の「八戸ノ里」の項で、現在も残るこの住宅の記事を書いたからである。平成一年当時、「約一〇軒」の住宅が残るといようなあいまいな数字しか私には示し得なかったが、今回の先生の調査によって、残存数も含めてメルクマールを刻めたことが感慨深い。（池田治司）

大阪商業大学商業史博物館紀要 第四号

平成一五年一月一日発行

編集・発行 大阪商業大学商業史博物館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町四一―一〇

☎〇六（六七八五）六一三三九

印刷・製本 株式会社RPSセンター

〒537-0024 大阪市東成区東小橋二二―二二

☎〇六（六九八一）三五三三一